# 世界に広がる滋賀県立大学の教育
## －日韓西交流国際建築ワークショップの開催－

高田　豊文・高柳　英明
環境建築デザイン学科

### １．はじめに

環境建築デザイン学科では、2007 年度に韓国・蔚山大学との国際建築ワークショップを皮切りに、毎年、国外の大学と建築教育に関する交流を継続している。ここでは、過去に実施されたワークショップのいくつかを紹介する。

### ２．スペインでの国際建築ワークショップ－2010 年度

2010 年度の国際ワークショップでは、12 月に本学科の教員と学生が渡欧し、スペイン・セビリア大学との初めての交流を行った。セビリア大学は 1551 年に設立された公立の大学で、学生数は現在 70,000 を超え、スペインの大学としては 2 番目に多い学生数を誇っている。

参加学生は、本学科とセビリア大学建築学部の学生の合計約 40 人であった。ワークショップのテーマは、現在は考古学博物館として使用されている 1915 年築の建物（写真 1）を対象として、その内部空間の新しい利用方法を提案するというものである。ワークショップは、対象建物のあるアメリカ広場（Plaza de America）で、セビリア大学のホセマリア教授のあいさつで始まった（写真 2)。その後、県立大の学生 3 人と現地学生 3 ～ 4 人が 1 グループとなり、合計 6 グループが現地調査や図面の製作などを共同して行った（写真 3)。作業途中には、県立大学とセビリア大学の大学間交流協定の調印式のためにスペインに来ていた曽我学長（当時）が、学生たちの作業の様子を見学に来られるというサプライズもあった。

発表会では、各グループが様々な提案を行い（写真 5)、発表会の後、全員の投票によって最優秀の作品を決定した。発表会後も、日本人学生とスペインの学生が連絡先を交換しあうなど、交流を深めていた。

写真１　考古学博物館

写真２　ホセマリア教授のあいさつ

写真３　共同作業の様子

写真４　曽我学長の突然の訪問

写真５　発表の様子

写真６　参加学生・教員の集合写真

### ３．世界遺産『良洞村』でのウェルカムセンターのデザインー 2011 年度

2011 年度は、９月に本学科の教員３名と学生 15 名が韓国・蔚山市を訪問し、蔚山大学校の学生 48 人と共同して国際建築ワークショップを行った。ワークショップの実施場所である良洞村（ヤンドンマウル、写真７）は、李朝時代の伝統文化や街並みがそのまま保存され、韓国の伝統が色濃く残る村であり、2010 年７月にユネスコ世界文化遺産に登録された。ワークショップのテーマは、この村の入り口にある良洞村会館（写真８）を建て替え、良洞村の環境と調和が取れたウェルカムセンターのデザインを提案するというものである。県立大の学生１人と蔚山大学の学生３～４人が１グループとなり、合計 15 グループが様々な提案を検討した。

両国の学生たちは共同して作業をするだけではなく、作業の合間にはサッカーをしたり、一緒に食事に出かけたりと、様々な方法で親交を深めていた（写

写真７　良洞村入口

写真８　良洞村会館

写真９　日韓両学生参加の食事会

写真 10　慶州での見学会

写真 11　発表会の様子

真 9, 10)。国際ワークショップの目的は、様々な国の学生が議論しながら共同で１つの作品を作り上げていくことにあるが、それ以上に、異文化に触れ、他国の人々と交流関係を深めることも、学生にとっては重要な目的の１つであると感じた。

発表会(写真 11)では、各グループ提案の発表の後、教員による投票が行われ、優秀作品３点を決定した。ワークショップの最後には、蔚山大学校建築学部長から優秀作品の表彰状とワークショップ修了証が授与された（写真 12)。

## ４．『歴史が融合する街』長浜を新しく造る －2012 年度

2012 年 9 月 21 日から 23 日の 3 日間、本学科において、韓国・蔚山大学の建築学部（学生 26 名、教員２名）と、スペイン・セビリア大学建築学部（学生２名、教員他３名）が来学し、本学科の学生 32 名と共同して国際建築ワークショップを開催した。今回のワークショップは 2007 年から数えて第 6 回目の開催であるが、3 か国による国際ワークショップは初めての試みであった。すでに第 1 回から 6 年が経過しており、本学と蔚山大が隔年ごとにホスト役を担当してきたが、ここに今年からセビリア大が合流したかたちとなった。準備期間の途中には、中国・アモイ大学も参加を検討していたが、残念ながらビザ等の関係で不参加となった。

今回のワークショップの課題は、新市庁舎移転の最中であった長浜市を対象敷地に選び、長浜の歴史街道の再整備と風土を活かした観光資源の開発を提案する『長浜ウェルカムセンター計画』とした（写真 13)。本学学生、韓国人学生、スペイン人学生の数名で１グループを構成し、全 16 グループで提案を行った。

参加学生は、実際に長浜市内を見て歩き、街の現状と課題を抽出して、様々な提案を検討した。最終日の発表会ではポスターセッション形式でプレゼンテーションを行い、その後の公開投票の結果、優秀 3 作品を選出、閉会セレモニーの場において表彰し、修了証を授与した。

写真 12　蔚山大学学部長からの表彰

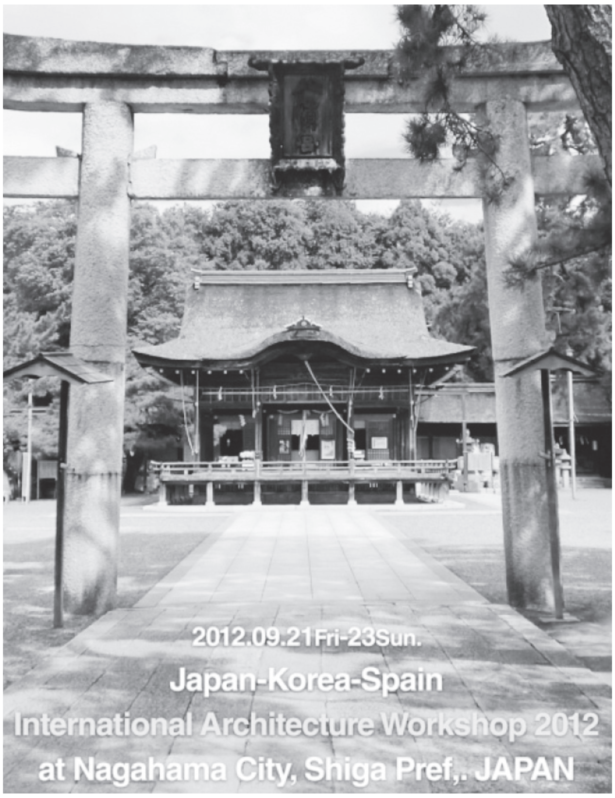


写真 13　開催告知のポスター

## ５．交流の意義と今後の課題

いずれのワークショップでも、開催期間中はほとんど英語のみがコミュニケーション手段であったが、3 カ国の学生とも、流暢に英語が喋れるというわけでもなく、グループ作業やプレゼンテーション時には、身振り手振り、あるいは建築模型やスケッチを用いながら、交流を深めていった。

こうしたワークショップの開催意義は、学生間交

写真 14　デザインサーベイの様子

写真 15　ワークショップでの作業の様子

写真 16　ポスターセッションの様子

写真 17　参加学生・教員の集合写真

流だけでなく、違った価値観や文化背景をもった学生らによる、新しいアイデアの形成が期待されるのである。長浜でのワークショップを例にとれば、本学学生には見慣れた風景であっても、韓国・セビリア学生の視点を通してみれば、思わぬ所に都市の潜在的な魅力が隠れていることがある。そうした気づきに多く触れられることこそが、建築を学ぶ学生にとっては何にもかえがたい,貴重なテキストになる。

ワークショップの取組みは単年度にとどまらず、できれば永続して続けていくべきと考え、開催回数を重ねてきたが、途中、蔚山大学との大学間協定、セビリア大学との学部間協定等を経て、次なるステージとしては大学間の単位互換制度の完備となろう。ただ問題としては、セメスター制の足並みの不一致や、9月卒業問題等、学科教員のみの努力だけではクリアできない問題が多い。本学の中期目標の中の国際化に関する目標には、「教育研究等の国際化の推進に関する目標」と「国際交流の推進に関する目標」が掲げられている。本学科のこのような国際的な教育活動は、本学の中期目標（国際化に関する目標）に合致するものであり、本学の国際交流推進のひとつの手段として位置づけるならば、大学をあげて制度改革を進める必要があると強く感じる。